

東ひろしまの遺跡 Vol.3

「人形代」と「円面硯」が出土！

せいもん せいもん あきこくぶんじしゅうへん せいじょうちょうどよまる よしゆき
 聲門遺跡・安芸国分寺周辺遺跡 (西条町土与丸・吉行)



写真1 聲門遺跡の発掘調査の様子

聲門遺跡・安芸国分寺周辺遺跡は、平成26年9月～平成27年2月まで道路改良事業に伴う発掘調査によって、溝状遺構・井戸・土坑などを検出し、須恵器・土師質土器・陶磁器・古代の瓦と木製品などが出土しました。

聲門遺跡から人形代が出土

聲門遺跡から出土した多量の遺物の中には、木の板に墨で顔などが表現された、人間の形を模した形代(=人形代)がありました。人形代は現在でも神霊が依り憑きやすいように紙で人間の形に整えられたものが、(1) 祓(穢れ)、(2) 病氣治療、(3) 呪いなどの祭祀に用いられています。

聲門遺跡の人形代は、溝状遺構から出土していますので、川(溝)などに流して祈願したのでしょうか。出土した人形代の特徴を見てみると、①薄板を使った扁平なもの、②正面を向いた“正面形”、③頭頂部の形は台形(1号)と三角形(2号)、④切欠いた肩部は「いかり肩」、⑤顔面等を「墨書」で表現、⑥手は確認できず、⑦下半身は欠損していました。

さて、「墨書」で表現された顔や体を観察すると、⑧額の黒点が「白毫」、⑨首の皺(弧

線)が「^{さんどう}三道」を現しているように見えてきます。もし、そうだとすると、これらの人形代は“仏”を現したとも捉えられます。まさに、「神様」と「仏様」に同時に願いをかけたようです。

よほど消し去りたい「穢れや病気」だったのでしょうか？それとも、誰かへの強い“^{のろ}呪い”をかけたのでしょうか？ キャー!!

安芸国分寺周辺遺跡から^{えんめんけん}円面硯が出土

一方、安芸国分寺周辺遺跡からは、「円面硯」が出土しました。底部の復元直径が約26cmと大型のもので、“^{りく}陸（固形の墨をする）部分”は欠損しています。

^{すずり}硯が出土するという事は、識字層（文字を書くことができる人たちが）がいた可能性が高いということになります。なお、今回の調査区か



写真3 出土した円面硯



写真4 円面硯の出土状況

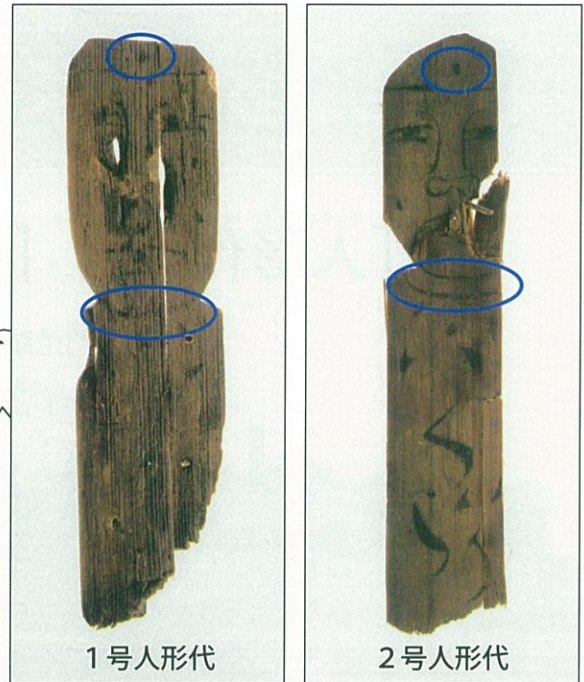


写真2 聲門遺跡から出土した「人形代」
白毫や三道と考えられる表現が確認できます。

ら北方約500mの地点に存在する^{だいじめん}大地面遺跡からも「円面硯」が出土していますが、隣接する奈良時代の安芸国分寺からは、硯の専用品は全く出土せず、須恵器の蓋や皿の底などを再利用した^{てんようけん}「転用硯」しか確認できていません。広大な当時の国分寺の境内全体を調べたわけではありませので、偶然かもしれませんが、大変興味深い問題と言えそうです。

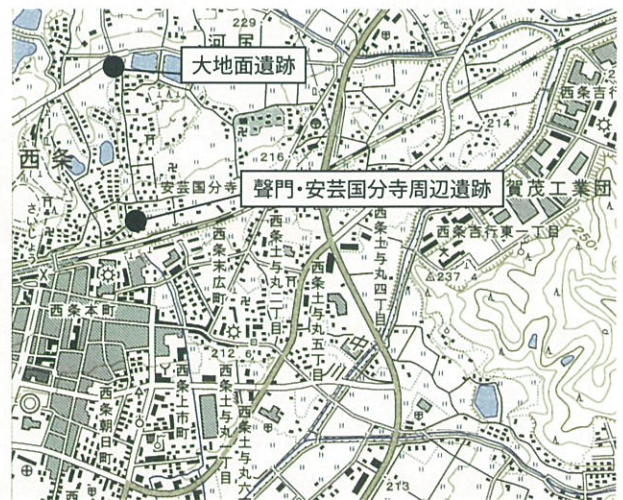
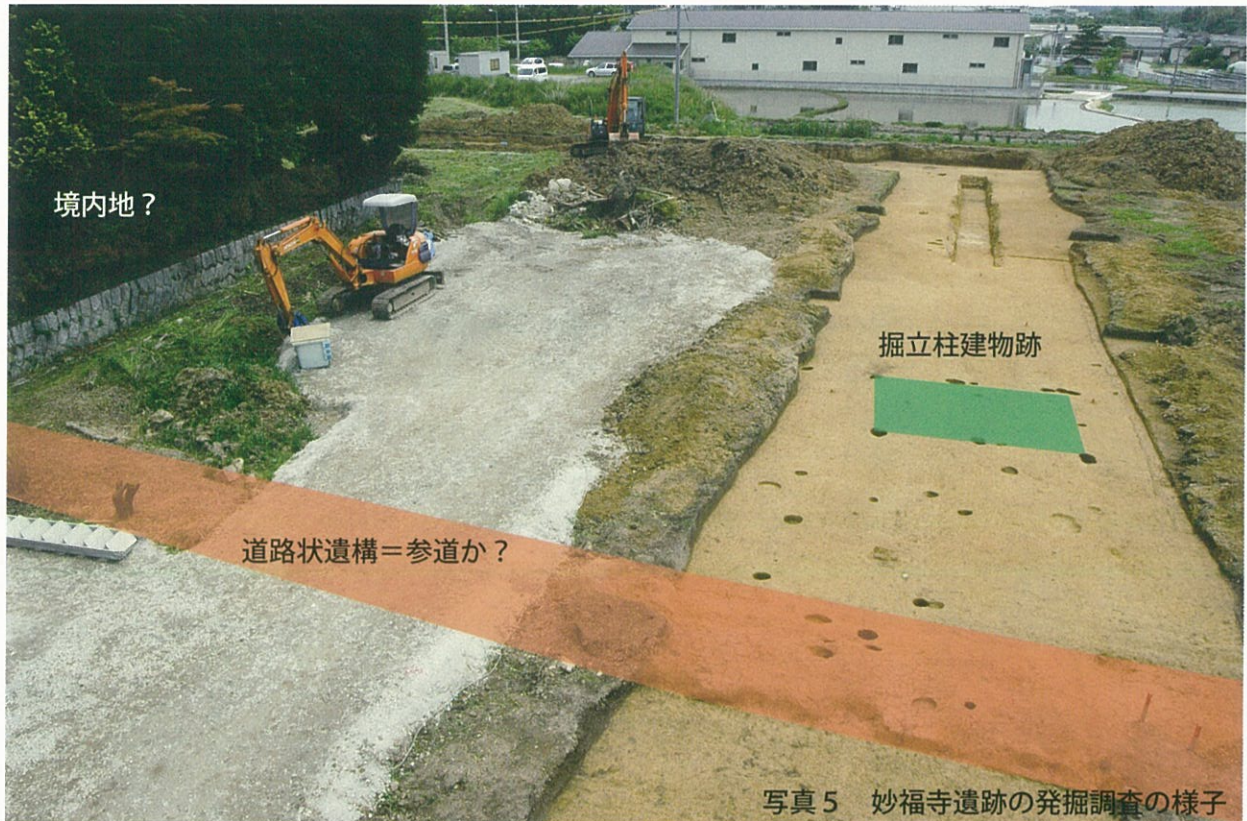


図1 聲門・安芸国分寺周辺遺跡位置図
(1 : 25,000)

寺院の伝承地を掘る！

みょうふくじ はちほんまついいだ
妙福寺遺跡 (八本松飯田七丁目)



妙福寺遺跡は、平成27年4～6月に住宅団地の造成に伴って発掘調査しました。計画地のうち宅地になる部分は、盛土をして遺跡をそのまま保存することになりましたが、道路などの工事で遺跡が壊れてしまう部分について、発掘調査を行いました。

資料調査

「妙福寺」の縁起によると、この寺は南北朝時代に創建された「清滝十二坊」の一つであったと伝えられています。清滝から移った後、一時衰退していたものを戦国時代に鏡山城の城番であった蔵田備中守が再建して、僧坊八坊を有し、門前には市が開かれるまでになりましたが、その蔵田氏が「鏡山城跡の戦い」で戦死したため、妙福寺は再び衰退してしまいったようです。その後、江戸時代の初め頃、浅野氏の家臣が原飯田村に領地を与えられた際に妙福寺の衰退を聞き、広島藩に再興を願い出て現在地（八本松南一丁目）に再建して、今に至ったと言われています。

発掘調査

発掘調査の結果、掘立柱建物跡・井戸・道路状遺構・土坑・溝状遺構などの遺構が検出され、土師質土器・輸入及び国産の陶磁器や木製品・金属製品などの遺物が出土しました。

今回の発掘調査では、妙福寺の遺構を示すものは見つかりませんでした。しかし、石垣に囲まれた一段高い区画（写真5の左側）は境内地^{けいだい}と考えられ、その中に寺院が建っていたと推定されます。また、その区画に向かって真っ直ぐ伸びる道路状遺構^{きんどう}が参道だとすると、その道と並行するように建っていた掘立柱建物は、“門前に開かれた市”の存在を伺わせるものです。

次に、出土遺物から考察してみます。出土した遺物は、小破片ばかりで詳細は不明ですが、①「贅沢品である輸入陶磁器が存在する」こと、②「中世～江戸時代初期の遺物が大半である」こと、③「江戸時代～近代の遺物が散見される」ことなどから、中世～江戸時代初期には

寺院を含む集落が盛衰しながらも存在し、寺院の移転後も集落は営まれていたと解釈できそうです。

今回の発掘調査地点は、「妙福寺旧境内地」の主要な部分ではなかったため、寺院の創建時期や伽藍の様子などについては確認できませんでしたが、寺院の周辺には集落が存在し、その盛衰の様子を知ることができました。

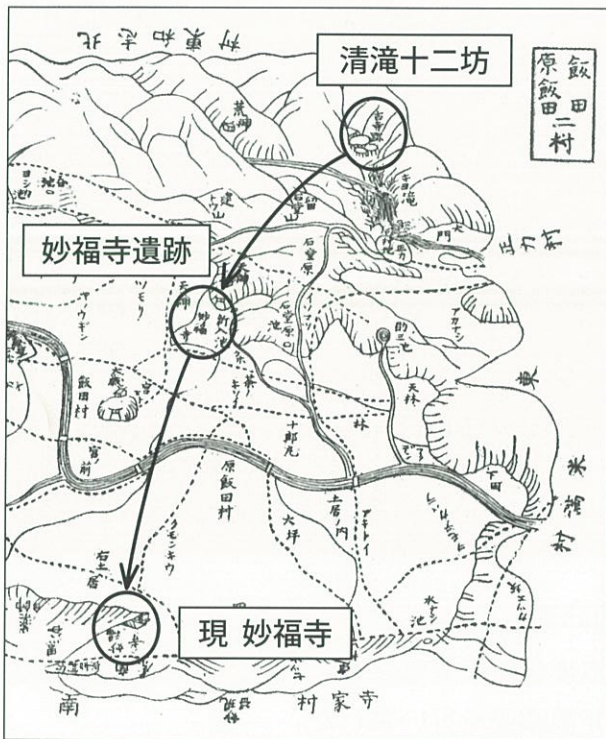


図2 『芸藩通志』の絵図（部分）



写真6 焼石と焼土・炭化物がつまった土坑



図3 妙福寺遺跡位置図（1：25,000）

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡 Vol. 3

発行日 2015(平成27)年9月30日
発行 東広島市出土文化財管理センター
(東広島市河内町中河内651番地7)
TEL:082-420-7890 〒739-2201

編集 東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印刷 大東印刷株式会社